

# 4月

2019年  
みやま

第251号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

## 医療法人社団 光生会 平川病院

病院目標『時代が求める価値ある病院づくり』～ネットでつなごう医療の和～

【ホームページ】 <http://www.hirakawa.or.jp/> 【e-mail】 hhsp1966@violin.ocn.ne.jp



新入職員オリエンテーション1日目の集合写真（平成31年4月1日 ホールにて）

## 元号が「令和」になって

平成31年4月1日11時45分頃でしょうか。院長回診を終えて事務室前からエレベーターに乘ろうとしたとき、外来ロビーに人だかりを見つけました。いつもと雰囲気が違い、患者さんだけでなく、事務職の制服や白衣の人が何人も目に入りました。何かトラブルでもあったのかと思って、近づこうとしたとき、人がばらけて、テレビが目に入りました。「令和」と書いた額縁をもった菅官房長官の姿が見えました。そういうことかと合点しました。「令和」は万葉集から出典したもので、元号を中国ではなく日本の古典から採用したのは始めてだと報道されています。「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ。梅の花のように、日本人が明日への希望を咲かせる国でありますように。」という願いが込められているとのことで、素晴らしい元号だと思います。天皇陛下が4月30日に退位され、皇太子さまが翌5月1日に即位され、新しい時代が始まります。皆様にとって良い時代になることを祈ります。

院長 平川 淳一

【表紙】院長挨拶【P2】新しい仲間・外国人技能実習生を受け入れます【P3】検査科から【P4】地域生活支援室より【P5】退院時アンケート推移グラフ【P6】こころの扉【P7】当院の造形教室の活動が新聞に掲載されました

# 新しい仲間・外国人技能実習生を受け入れます ～ハートランド・ぐらんぱぐらんまでの交流研修～

平川病院が進めている技能実習生受け入れ。臨床の場におけるスタンバイの様子について、東4病棟の本田美智子師長にお聞きしました。

## 一外国の方々の就労受け入れの準備をされたと聞きました

昨年の9月、同グループの老健施設「ハートランド・ぐらんぱぐらんま」での交流研修に参加した。

## 一どのような目的が？

光生会グループの施設である特別養護老人ホーム・老健施設が、平川病院と、関連施設としてお互いに連携を強化すること。これから増える外国人介護職、外国人技術実習生を受け入れる前に 現場ではどのような介護や対応を提供しているのか 人材育成の研修はどうしているのかなど実際の方法について情報を交換し、お互いのことをよく知り、加えて自分の施設を見直す機会を持つこと。



## 一研修で感じたことは？

長い間、一つの施設、平川病院で勤務してきたため 井の中の蛙になっていると感じたかもしれないと思った。今回、現場レベルで、一つ一つの介護ケアを振り返り 日頃漫然としている介護ケアについて具体的に、詳細に、意見交換ができた。

## 一交換した情報について

接遇、感染対応、そのほかにも、例えばお茶の提供の方法については、緑茶、紅茶、コーヒーはカフェインがあるのでトイレが近くなりやすいので、午前に提供。麦茶は、カフェインがないため 午後に麦茶を提供し夜間の介護に無理のないケアの工夫をしていることなど、知ることができた。

## 一今後は

これからも連携を継続し、各施設で様々な創意工夫をしていることを学んでいきたい。今後、迎える外国人介護職、外国人技術実習生は、言葉、生活、異文化で戸惑うことが多いと思う。日本文化に慣れて頂き、少しでも長く日本の介護を学び、仕事に活かして頂きたいと願う。法人として統一性のある看護、介護を提供できるようにしていきたい。

東4病棟 看護師長 本田 美智子

# 検査科を紹介します

検査科から

皆さんこんにちは、検査科です。今回は私たちが日々どのような業務を行っているかを紹介したいと思います。検査は大きく2つに分けることができます。

1. 患者さんから採取された血液や尿などを調べる『検体検査』
2. 患者さん自身を対象に検査する、心電図・超音波・脳波などの『生理検査』

## 1. 検体検査



◎ 血液の主要な要素である血球成分

赤血球、白血球、血小板、ヘモグロビンなどを調べる：血球測定



血球形態に異常があった場合は血液塗抹標本を作成し、顕微鏡を用いて細胞数や血液像を観察し、異常形態の有無を調べます。



◎ 血液などの体液成分を検体とし、タンパクや糖、電解質、酵素、血中の薬物濃度などの各種成分を測定する：生化学検査

## 2. 生理検査



◎ 心臓の活動により発生した電位変化を記録し心臓の働きやリズムを調べる：心電図検査



◎ 体の表面から人の耳には聞こえない音（超音波）を当て、体内の組織にぶつかって跳ね返ってきた音を画像にして検査する：超音波検査（エコー）  
頸動脈、心臓、腹部、下肢静脈を検査しています。

◎ 脳細胞の活動によって発生する電位変化を頭皮上の電極から記録し、脳機能を調べる：脳波検査



## 放射線科：当院では放射線技師 1名で業務を行なっています

X線を使って体内の肺や心臓、腸管などの状態を調べる

X線を使って身体の断面を撮影する：CT検査



一般撮影検査

すべてを紹介できませんでしたが、私たち検査科は常に迅速かつ精度の高い検査データを提供できるよう努め、チーム医療の一員として患者様に信頼される検査科を目指します。

## 美山ヒルズ30周年記念パーティを開催しました

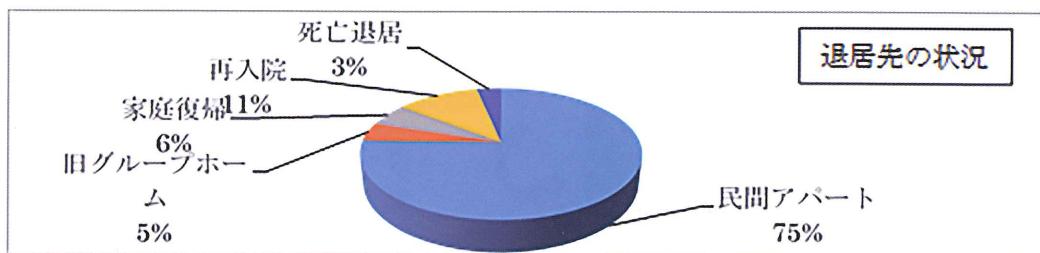
地域生活支援室より

昨年の12月に京王八王子駅の8カフェという所で、美山ヒルズ創設30周年記念パーティ＆クリスマス忘年会を行いました。入居者やOBの方に加え、各関係機関や病院関係者の方々も集まり、総勢50名程で食事をしながら美山ヒルズとの思い出を話しました。スライドショーも交えて30年の歴史を振り返り、bingo大会やじゃんけん大会で盛り上がり、楽しいひと時を過ごすことができたと思います。最近はあまり外出できなくなっていたOBの方も参加でき、帰りには本当に参加できて良かったと何度も何度もおっしゃっていたのが印象的でした。制度的なサービスの支援だけではなく、人生においての楽しい思い出を作ってもらうというのも大切なグループホームの役割の一つなのだと再認識しました。



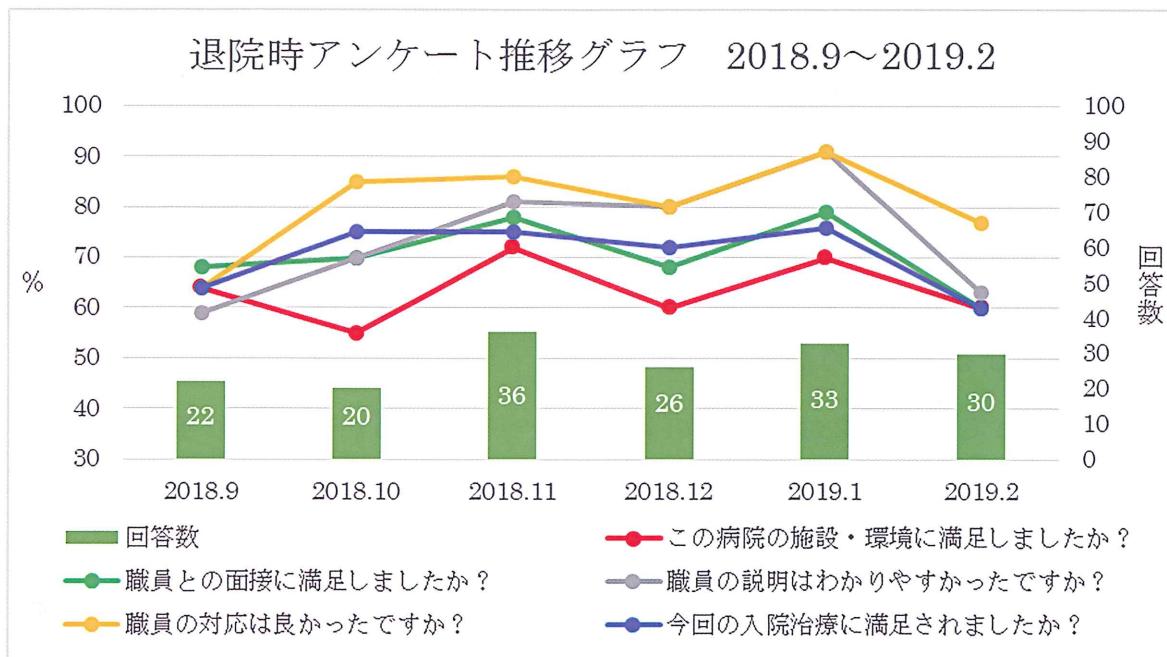
この30年の間に、計105名の方が入居し91名の方が退居しました。下記のグラフにあるように8割以上の方がアパートで一人暮らし家庭に復帰しています。当初は入院歴20年～30年という長期入院の方の地域生活の受け皿として機能していた美山ヒルズも時代と共にニーズも変化してきており、近年は入院期間も短くなり、病院から利用される方以外にも家族からの自立の為に利用される方、若い入居者の方も増えてきています。一方で7年前に滞在型のホームを開設し、こちらは介護サービスとの連携や内科疾患へのサポートに力点を置いて支援しています。今後も時代が変わり、ニーズが多様化していく中でも、美山ヒルズが30年大事にしてきた「個別性の重視」を大事にし、利用する方がその人らしく生活し、希望する生活を手にすることができるよう、サポートしていきたいと思います。

美山ヒルズ 世話人 高橋 孝太



## 退院時アンケート推移グラフ -2018.9~2019.2-

平川病院では、退院時にご協力いただいたアンケートについて、その集計結果を毎月検討しております。2018.9号の広報誌「みやま」へ掲載した続編として、「この病院の施設・環境に満足しましたか」「職員との面接に満足しましたか」「職員の説明はわかりやすかったですか」「職員の対応は良かったですか」「今回の入院治療に満足されましたか」の5項目（前回同様の項目）を抜粋し、データをグラフ化しました。



※折れ線グラフは、アンケートにて「はい」と回答いただいたパーセント、棒グラフは有効回答数を示します。

2018年11月より、医療の質向上促進委員会にて「回答数を増加させる」ことが患者様の満足度向上の第一歩と考え、病棟中心に様々な取り組みを開始しました。その結果、回答数を増加させることができました。ご協力いただきました患者さま・ご家族さまに御礼を申し上げます。

上記グラフの推移を見ると、10月以降職員の対応について、80%~90%の方に「対応が良かった」との回答をいただきました。日頃より取り組んでいる職員の対応（接遇）等の質向上が実施された結果が表れており、一定のご評価を頂いたと職員一同感謝申し上げます。

一方『この病院の施設・環境に満足しましたか』の回答は、全体的に良い方向への回答が少なくなっていました。ハード面の課題を整えていかなければならないことを再認識し、今後改めて検討すべき事項であると考えております。

今後も引き続き、医療についての説明と合意をより丁寧に行い、患者さまに満足いただけるよう高度な医療提供を目指してまいります。何かございましたら、外来や病棟に設置しております意見箱に、是非、ご意見を頂戴いただければ幸いです。

## こころの扉 その197 ~効果的な褒め方とは?~

「褒め」については、これまでこころの扉で何度か触れてきたテーマになります。学習心理学の領域において「褒め」は「強化」や「社会的報酬」という言葉に置き換えることができます。また、褒めるという行動は特定の行動を増やすことにも繋がります。しかし、褒めると一口に言っても、どのように褒めるのか、褒めるタイミングはいつなのか、褒める言葉は何か、毎回褒めるのか・たまに褒めるのかなど、非常に多くの褒め方があり、それぞれが行動に与える影響は異なります。

ところでみなさんは、自分の頑張りを褒められるとしたらどのような褒められ方が良いでしょうか?例えば、あなたが毎朝職場で掃除をしていることを上司から褒められる場面を想像してみてください。

- ① 「毎朝早く来て掃除をしてるね！」
- ② 「すばらしい!掃除上手だね！」
- ③ 「いつも助かるよ、ありがとう！」



①は事実を言っていて、②は話し手の評価が入っています、③は話し手の感情をフィードバックしています。このように褒め方にも色々あり、また、どんな褒め方がその人にとて響くのか、つまり効果的であるのかも異なります。

ちなみに、心理療法科員でも褒められたときの反応は様々です。例えば、集団プログラムを終えて「いや～今日のプログラム頑張ったね!良かったよ!」という上司や先輩からの褒めに対して、Aさん「ありがとうございます～(喜)」、Bさん「さっきのやり方で良かったんでしょうか?あ～～(悩)」、Cさん「いや、まだまだです!(指導されたい)」といった反応が観察されます(笑)。

実際に学習理論を用いた心理療法では、増やしたい行動を具体的に決め、どのような場面でその行動をしたら強化するのか、どのような強化で行動が増えるのかなど、かなり細かく分析して介入していきます。

とは言え、日常生活場面ではそこまで細かく考えることはないと私は思います。「褒め」を効果的に使って特定の行動を増やしたいという場合には、まずは褒め方のレパートリーを用意して、それを相手に試してみて行動が増えるかどうかチェックしてみると良いでしょう!

心理療法家科 臨床心理士 高倉 佑紀子



## 当院の造形教室の活動が新聞に掲載されました

当院の造形教室が主催する「自己表現展」にご来場された、京都造形芸術大教授の藤澤三佳先生が、京都新聞にご感想を寄稿されました。ご本人の承諾を得て、以下に全文を掲載いたします。（画像は当日展示された作品の一部）

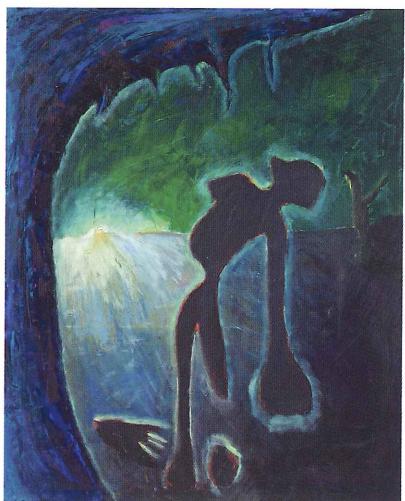
昨年12月、東京の高尾にある精神科の平川病院造形教室の絵画展第25回「癒しとしての自己表現展」を見に行った。病院でもアート・ギャラリーでもなく、「街中で展覧会をやろう」と年1回、八王子の市民会館で開催されている。『生きづらさの自己表現～アートによってよみがえる生』という本でも紹介したが、この造形教室は安彦講平氏が1969年という非常に早い時期から、複数の精神科病院内で自由な創作の場を求めて主宰してきたもので、人の背丈より大きい号数の油絵や小さなパステル画、マンガなどさまざまな作品が描かれている。

展覧会場では表現者である患者さんが絵の前で自分の思いを語り、毎年訪れる人やはじめての人たちを交えて語り笑いあって、多くの人々の熱気に包まれている。今回新しくメンバーになった若い華やかな女性がいて、その絵のキャンバスは真ん中が破られて穴があいているのに気づいた。聞けば、彼女は親に厳しく育てられ不登校、ひきこもり状態になっていたが、その穴は、造形教室で初めて自分の感情を表現でき勢い余ってあいたものとのこと。はじめは絵を描くことも大変で、メンバーが一緒に描いてくれたりして徐々に描けるようになったという。



江中裕子

『私の心臓は毛が生え  
神経は鋼鉄より太く硬く』



古名和哉

『出発の朝』

またある確認行為を繰り返す症状をもつ男性は、最初は美しい絵を描いていたが、ある日、自分が描いた美しい海辺の貝殻の絵に思わず斜めに線を入れて、以後、水道の蛇口がしまっていることを確認する自分の姿など、次々に自分の症状を描くようになった。「自分に聞いてみて、描いてもいい、と答える自分がいて、造形教室の皆さんにも後押しされ、描き始めました」と言う。そして症状はどんどん軽くなり、さらに社会的なテーマの絵に変化していく。「他の人のために何かできる事があるのではないかと思い始め、おののきながら手を差しのべようとする、社会の人とのつながりで、何かできる事がないのか」と語る。

この造形教室では、絵を描くことだけを目的とせず、安彦先生とも友人のような関係で一緒に弁当を食べ、またお茶を飲みながら絵について語り合う「合評会」の時間が大切にされている。ある躁うつ病の女性は、「ここの場の空気にふれたいから、普通に呼吸するために来ているのであって、先生も症状の重い人には、絵なんか描かなくてもいいんだ、お茶でも飲んで、おしゃべりしたらと言つてますね。この場に自分が守られている、自分の居場所というか。この山（高尾山）全体が自分のエナ（胞衣）のような・・・」と私に語った。皆楽しそうで、「生きる意欲を取り戻した」と口々に言う。

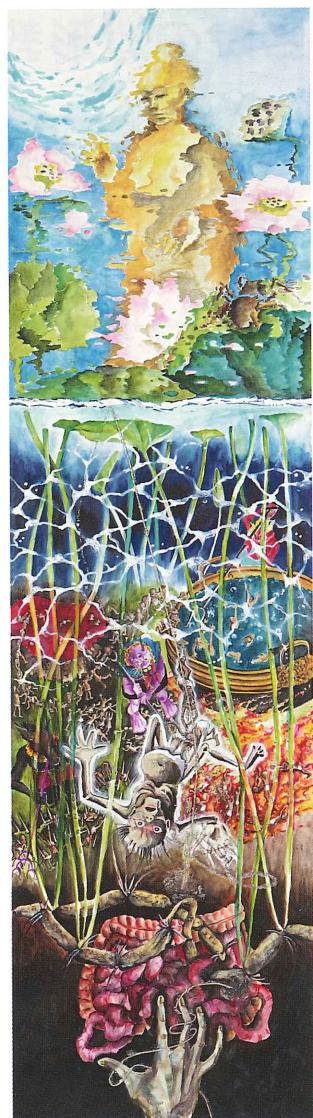
この教室では50年間で一人の自死者もいない。苦難の人生の中でも、もう一度、仲間や先生、絵を通じて知り合った人々との関係や居場所を社会のなかでつくるなかで表現されたものはすばらしく、見る人の心を打つ。私もいつも造形教室や展覧会場を後にすると、身体が軽く温かくなる。社会がすべてこのようであればいいと感じ、この場がもっと増えることを願っている。

この文章は、京都新聞 平成31年1月

「現代のことば」で掲載されたものです

松本作和子

『The spider's thread』



### 当院は南多摩医療圏の地域拠点型認知症疾患医療センターです

東京都では、平成24年に指定された「地域拠点型認知症疾患医療センター」12カ所（当院含む）と平成29年11月迄に指定されている「地域連携型認知症疾患医療センター」40カ所、合わせて52カ所の医療機関において、認知症の人とその家族が安心して暮らせる地域づくりを進めています。  
認知症に関するご質問がありましたら、各地域のセンターまでお問い合わせ下さい。  
尚、センター指定状況や役割の詳細等については、東京都公式ウェブサイト『とうきょう認知症ナビ』でご確認いただけます。

[とうきょう認知症ナビ](#)

#### 編集後記

イチローが45歳で引退、50歳まで現役は可能と思っていた。理由は、「マリナーズ以外に行く気持ちがなかった」。王選手は40歳の年、30本塁打を打ちながらその成績に納得がないかないと引退。野村選手も現役時代数々の記録を持つ選手であり、捕手という重労働なポジションで45歳まで現役を貫いたが、ピークを過ぎての引退の扱いは寂しかった。様々選手の引退劇を感じながら「私の引き際どうしよう」と考える年齢に……。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076  
電話 042-651-3131  
FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします  
kouhou@hhsp1966.jp

HIRAKAWA  
HOSPITAL

